

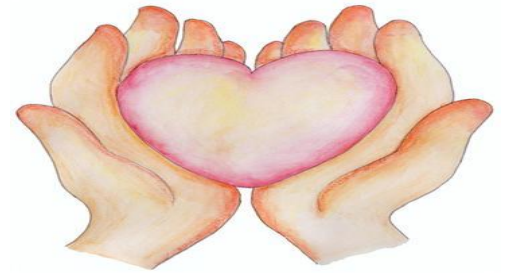
大中PRIDE



大津町立大津中学校
生徒指導通信 4号

令和6年6月14日(金)
文責：岡村 康平

心の中の線



これまでの教員生活を通して、生徒から出てくる「先生、何でルールを守らないといけないんですか」という質問。先日も、ある生徒から質問された。「茶髪にしたら何でいけないんですか」「眉を剃っても、誰にも迷惑を掛けないですよね」…。実際、学校生活で教師から生徒に話す言葉…「ちゃんとルールを守らんか!」「何でルールを守らんとか!」。そこで、今回の通信は『規則と規律』『なぜルールを守らないといけないのか』という理由を含めて、綴らせてもらいます。

ルール(規則・校則)は、破っても、周りには迷惑を掛けてはいないが、少なからず嫌な思いはさせていると思います。「私は茶髪にしたいから」「眉を剃っても周りには迷惑かけない」ではない。自分さえ良ければという判断が、周りの人たちに嫌な思いなど悪影響を及ぼしているということを理解しなければならないと思います。自分は良いと思っけていても、周りを不快にさせたり、迷惑を掛けるならできない、それが社会です。学校は「社会」に出て行くための勉強をしています。つまり、自分のためにルールがあるのです。

また、『安易にルールを破ることが習慣化されると、次第にエスカレートしていく』という特徴も知っておく必要があります。ルールを破っていくことを積み重ねていく内に、本来「やってはダメなこと・許されないこと」が、「自分の心の中で、いつの間にか『やっても良いこと』」にすり替えられ、気づいた時には大事故・大事件に繋がっていることがたくさんあります。このように、最終的に自分が被害を受けることになるのです。だから、よく言われるように『ルールを守ることは、自分を守ること』だと思えます。

それに加えて、規律というものがあります。規律とは「マナー」のことです。学校の外に出ると、法律以外、学校の規則と一般の人の規則には、あまり共通点がありません。一般の人は、学校の規則はあまり知らないでしょう。だからこそ、一般の人が不愉快な気持ちになるのは、規則よりも規律(マナー)を守らない時の方が、大変不愉快な思いをされることが多いです。マナーは、社会も学校も共通していることが多いからです。

マナーをしっかり守っている人にとっては、自分が守っているだけに、マナーを守れない人や行為がとても気になるのです。人のことを考えないで、マナーを守らない人のことを、社会は良く思いません。最近、色々な人が集うレストランや公共施設、バスや電車などの公共の乗り物内などで騒ぎまくる子どもや中学生をたくさん見かけます。さらに、幼い子の近くにいる親もそれをとがめなくて見ているだけ…このような場面もよく見られます。学校でも社会でも「節度」のない子が増えている気がします。

子どもたちも「悪気」があるばかりではなく、まさしく屈託のない、節度のない言動を繰り返す…何故でしょうか?

それは、自分の中に行動基準(ここまではいい、ここまではダメだ…という線を自分の中に持っているかどうか)が無いからでしょう。何回叱られても、人に迷惑ばかり掛けてしまう人がいます。叱られないと、きちんとできない人もいます。そういう人たちに足りないものは何か…。それは、

「自分の心の中に線を引く」

ということです。この辺までは良い、ここから先はダメというのが、自分で線引きできない人は、いつも誰か他の人に線を引いてもらって、ガツンと言われたいとはみ出してしまうのです。

世の中には、線は引かれていないけれど、色々な物事に対して、出てはいけない線があります。「授業中、音を立てて騒ぎ、授業を妨害する」「電車の中で騒ぐ・暴れる」「公共の物を勝手に壊す・盗む」など一線を越えています。それだけ、自分で線を引けない人がいるということです。もちろん、小さい子は仕方ないでしょう。幼児は、そこで叱られて、だんだん自分の中で「こういうときは、この辺が、越えたらいけない線だな」と学んでいる最中なのです。

しかし、中学生は一緒ではいけないと思います。「自分で線を引く」というのが中学生です。それを別の言葉で言うと「自律」ということです。自律とは「自分を律する」「節度を持って生活する」ことです。

「人に言われなくても、自分で自分を踏み止める力を持つこと」「大事な時に、ここで踏みとどまらなれないといけないと自分で思うこと」社会に出たときに、本当に必要なことです。

「考動(考えて動く)」ことを大切にしてほしいと切に願います。